

緑肥の作り方

1. 緑肥の目的

- (1) 物理性の改善：作物の根の生活環境が良くなる
 - ①団粒構造の形成、②透水性の改善、③通気性の改善
- (2) 化学性の改善
 - ①保肥力の増大：有機物が微生物に分解されて、腐植を形成。
 - ②クリーニングクロープ：過剰な肥料成分を緑肥に吸収させ、搬出。
 - ③空中窒素の固定：マメ科の根に着生している根粒菌によって、空気中のチッソを固定。土壌の肥沃化。
- (3) 生物性の改善：土壌中の微生物に対して
 - ①作物の根から出る糖類をエサにして増殖。
 - ②マメ科などの内生菌根菌と共生し、リン酸の吸収能を高める。
 - ③有害センチュウの抑制：有用微生物を増殖。土壌病害を軽減。
- (4) 環境保全
 - ①景観の美化、②表土の流出、③観光
- (5) 防風対策：海岸沿い、吹きさらしの場所
- (6) 敷きわら利用
⇒カボチャなどのウリ類の敷きわら代替
- (7) ドリフト対策

2. 緑肥を選ぶポイント

- ①目的は？
- ②計画的に！（圃場のローテーション：栽培）
- ③緑肥の栽培期間と腐熟期間を十分に
⇒すき込む事を考えると・・・
老刈り>若刈り、トウモロコシ・ソルゴー>麦類、根>茎葉・・・分解遅い
- ④緑肥の草丈（作業性）
 - ・腰の高さ→トラクターで倒しロータリーで
 - ・トウモロコシやソルゴーは草丈2m以上

3. 代表的な緑肥作物の種類と特性

- ①イネ科：有機物、深根性→土壌の改良効果
ムギ類、ギニアグラス、ソルゴー、イタリアンライグラス、トウモロコシなど
 - ②マメ科：地力の増強→土壌の肥沃化
クロタラリア、レンゲ、クローバなど
 - ③キク科：ネグサレセンチュウ対策、景観
マリーゴールドなど
- ※ 緑肥及びセンチュウの効果は作物、品種により異なる。

4. 施肥、は種時のポイント

- ①イネ科：チッソで3~5kg程度目安

②マメ科：チツソで2~3k g 程度目安

(注意点)

- ・前作、目的を考えて行う。
- ・ハウスなど肥料成分が多く、除塩対策で行う場合は無施肥で行う。
- ・は種量が少ないものは**磷酸質資材**と混ぜるのもひとつの手。
- ・覆土と鎮圧：**深さ3cm程度**（種子の大きさの**3~5倍程度**に！）
- ・覆土が無いと・・・鳥に食べられる。
- ・鎮圧しないと・・・乾いていると発芽が不良

5. すき込み時の注意

- ①一般に刈り取り、すき込みの適期は**出穂期~穂ぞろい期**
- ②特に**炭素率（C/N比）**が高いトウモロコシ、ソルゴーは分解を促進するために**石灰チツソを40~60k g/10a程度**施用し、すき込む。
- ③すき込み後すぐに、次作のは種・定植はしない→発芽、生育障害のもと『**分解にともなうガスの発生、窒素飢餓**』
- ④岐根の発生を抑えるために大根などの根菜類は**深めにすき込む**→岐根の発生→**露地で最低約1ヶ月、施設で3週間の腐熟期間が必要！！**
（余裕を持って行ないましょう。圃場の状態、すき込み時期により腐熟期間が異なります）

表. 作物別の有害センチュウ

	ネコブセンチュウ				ネグサレセンチュウ		
	サツマイモ	ジャワ	キタ	アレナリナ	キタ	ミナミ	クルミ
キュウリ	○	○	○	○	○	○	○
カボチャ	○	○	○	○	○	○	○
メロン	○	○	○			○	○
マクワ					○	○	○
スイカ	○	○		○	○	○	○
ナス	○	○	○	○	○	○	○
トマト	○	○	○	○	○	○	○
エンドウ			○		○	○	○
インゲン	○				○	○	○
パレイショ	○	○	○	○	○	○	○
サツマイモ	○				○	○	
サトイモ	○	○		○	○	○	
ヤマノイモ	○	○	○			○	
ショウガ	○	○					○
ネギ	○	○	○	○	○	○	○
ニラ							○
カブ	○				○	○	○
ダイコン	○	○	○	○	○	○	○
ニンジン	○	○	○	○	○	○	○
ゴボウ	○	○	○	○	○	○	○
ハクサイ	○	○	○	○	○	○	○
キャベツ	○	○	○	○	○	○	○
ハウレンソウ	○	○	○	○	○	○	○